

● 復興教育 ●

釜石市のよさと震災による被害を学び、 考え表し実践する児童の育成

岩手県 釜石市立双葉小学校（校長 市村かおり）

- 1 地域の様々な施設、支える人、もの、ことを学ぶ
- 2 地域のよさを見つめる探究学習を実践する
- 3 復興・復旧にむけた取組や防災、震災被害等に目を向ける児童を育てる
- 4 「総合的な学習の時間」の年間計画の見直しと再構築

【はじめに】

本校学区は、釜石市の中央東寄りに位置し、釜石港より約2km～4kmの範囲に広がっている。北側と南側には標高300m前後の山々が連なり、その間を流れる甲子川流域の沖積地に位置している。

明るく素直（気さく）で校内でのあいさつや思いやりが以前にも増してよくなっている子供たちである。また何事にも一生懸命取り組もうとする子供たちが多い。さらに、学習面において基礎基本を十分に身に付けることができるように日々の学習に取り組んでいる。これらをより高めるために、一人一人が自分なりの考えをもち、主体的に取り組む姿勢を身に付け、好ましい子供

同士の関係や折り合いをつける等の人間関係を学ぶことや学級内の規律や秩序を体得させていくこと、共感的な学級づくりが一層求められている。

現在在籍している児童は、震災から14年目を迎えた現在、震災を知らない。本校は日本海溝・千島海溝地震津波による浸水危険区域に指定され、中妻地区との総合防災訓練を継続して行っている。今後も防災教育と釜石のよさを見つめる探究学習に力を入れていくことと、震災以外の様々なストレスが原因となる心のケアも増加しているので十分に配慮していくことが必要である。

【研究主題（課題）について】

釜石市のよさと震災による被害を学び、
考え表し実践する児童の育成

2011 年釜石市は東日本大震災の地震と津波の襲来を受けたが、本校が位置する釜石市西地区は沿岸からやや離れているため、地震による被害のみに留まった。

現在、日本海溝・千島海溝、宮城県沖における巨大地震の発生が予想され、地震を含めた防災教育が求められている。そこで、本校では防災教育のみならず、地域のよさを見つめる探究学習に力を入れてきた。

今年度は、釜石市のよさと震災による被害を主体的に学び、自分たちにできることを考え、実践する児童の育成を目指し、研究を進めていきたいと考える。

【研究方針（方法、視点）】

釜石市の様々な施設等を見学し、釜石市を支える人、もの、ことを学びながら、復興・復旧にむけた取組や防災、震災被害等に目を向けることにより、自分たちができることを考えたり、発信したりする児童の育成を図る。

【研究の具体的な内容】

《釜石のよさ》

—低学年—

- ・身近なお店と公園探索
- ・鉄の歴史館見学
- ・釜石鉱山の坑道見学

—中学年—

- ・伝統芸能学習

- ・釜石市の町づくり学習
- ・津田商店工場見学
- ・釜石市の公共施設見学
- ・社会福祉協議会と連携した体験学習
- ・ラグビー体験

—高学年—

- ・SDGs 学習
- ・根浜海岸の環境問題学習
- ・いのちをつなぐ未来館見学
- ・東日本大震災津波伝承館見学

《防災教育》

—低学年—

- ・地震や津波等の自然災害が発生するメカニズム
- ・救護活動等に従事する人
- ・学校内の避難経路、避難方法と地震発生時の身の守り方

—中学年—

- ・釜石市の災害時の様子
- ・災害を防ぐための努力と工夫
- ・ライフラインの大切さ
- ・避難場所や学区内における災害危険箇所調べと地域防災活動

—高学年—

- ・総合防災訓練
- ・東日本大震災の被害の様子
- ・復興、復旧の様子や人々の努力
- ・自分たちにできる備えと地域への発信

《重点項目》

- ・地域のよさを見つめる探究学習
- ・地域との連携
- ・総合的な学習の時間の計画の見直し
- ・防災教育

【研究・実践の様子】

《1年生》

【学習内容】

単元名

じしんやつなみについてしろう

ねらい

- ・地震や津波の仕組みについて知り、地震と津波の関わりを理解する。
- ・地震や津波が起こったときに、どのような行動をとると良いか考える。

【学習の様子】



—防災授業の様子①—

初めに、地震や津波について自分たちが知っていることを自由に話し、学習への意欲を高めた。その後、地震が起こることによって、津波が来る可能性があることを学習した。津波は、地震によって海底の岩盤が割れ、盛り上がったたり沈んだりすることで引き起こされることをおさえた。また、津波の速度を人が走る速さと比べながら、水深が深ければ深いほど新幹線やジェット機と同じくらいの速さになることを学習した。その後、動画を活用し、津波が普通の波とは違い人が立ってられないほどの強さであることを学習した。

海に近いこの町で生活する自分たちに

とって、津波について知っておくこと、地震が起きたら津波が発生するかもしれないことをふまえて、地震が起こった後にどのような行動をとるとよいのか児童に考えさせ、互いに考えを伝え合う活動を行った。



—防災授業の様子②—



—防災授業の様子③—

【学習の成果】

学習の始めに、釜石のよさについても考えさせ、児童からは海が美しいことや魚がたくさんとれることが挙げられた。海は「津波」という怖いものだけではなく、私たちに恵みももたらしてくれるということを前提に学習を進めた。「海に近いということは、津波が来るかもしれないから、いのちを守る行動をしよう」という学習のまとめとなった。

《2年生》

【学習内容】

単元名

もっとなかよし 町たんけん

ねらい

- ・自分たちの生活が地域の様々な人や場所と関わっていることに気付く。
- ・地域の場所や人に親しみをもって生活しようとする。

【学習の様子】

「鉄の町釜石」を支えてきた釜石鉱山の歴史や、鉱山で採れる仙人秘水について学習した。本単元は、『「鉄の町釜石」の歴史』から発展して、鉄を採取していた釜石鉱山に視点を当て、実際に鉱山を見学し、学びを深めるものである。

鉱山見学では、発掘していた鉄鉱石や磁鉄鉱、石灰石などを見せてもらったり、使用していた機械や道具について説明してもらったりして釜石鉱山の歴史について知識を深めることができた。また、釜石の名産品にもなっている仙人秘水が釜石鉱山から採られていることを知り、仙人秘水の採取方法や仙人秘水の歴史についても学習することができた。



—鉱山見学の様子—

学習のまとめでは、自分たちの町について再発見したことをグループ新聞にまとめて発表会を行った。



—使用していた機械—



—鉄鋼採掘の様子—

【学習の成果】

本単元を通して、自分たちの町が「鉄の町」と呼ばれる理由や町の名産品について学ぶことができた。実際に鉱山を見学することによって、多くの時間や労力を使って鉄鉱石を採掘してきたこと、釜石で採れた鉄が日本全国や釜石の人たちにとってどれほど大切な物であったかを知ることができた。また、釜石の名産品で全国的にも有名な仙人秘水と鉄鉱石が同じ鉱山から採取されていることも学習し、「釜石のよさ、特徴」についてさらに知ることができた。

《3年生》

【学習内容】

単元名

まちのひみつ発見！

ねらい

- ・釜石市にはどのような行事や民俗芸能があるのかを知る。
- ・自分が知った行事や民俗芸能のよさを、他者に伝え広めようとする。

【学習の様子】

1学期は身近な行事や民俗芸能について学習した。双葉小学校により身近な伝統芸能として、「八雲神楽」と「釜石よいさ」の二つに絞った。事前学習では、それぞれの歴史や概要について知るためにインターネットを使いながら調べ学習を行った。そこで分からなかったことやもっと聞きたいことを児童たちで考え、直接質問する場を設定した。

当日は、出前授業という形で講義・実践をしていただいた。講義では、スライドシアターを用いた分かりやすい説明や、丁寧な質疑応答のおかげで児童はさらに興味をもつことができた。



—出前授業の様子①—



—出前授業の様子②—

また、道具や踊りを実際に見たり触ったりした後、踊らせていただいた。実際に踊ったことで、難しさや楽しさを実感することができた。出前授業後は、学んだことや自分が発見した「ひみつ」をまとめ、グループで伝え合った。



—踊りの練習の様子—

【学習の成果】

釜石市の行事や民俗芸能を学んだことで、釜石の歴史に興味をもつ児童や、お祭りに参加したいと話す児童が増えた。自分から地域の行事や民俗芸能に触れようとする姿も見られるようになった。また、踊りを経験したことでその難しさを理解し、今も伝統を守ろうとしている方々への尊敬の念や大切にしていきたいという気持ちを育むことができた。

《4年生》

【学習内容】

単元名

誰もが安心して過ごせる町にするために

ねらい

- ・福祉とは何か、釜石はどんな取組をしているのかを知る。
- ・誰もが安心して暮らせる町づくりに携わる人々の仕事や願いを知る。

【学習の様子】

社会福祉協議会の協力のもと、児童が学びたい活動を中心に計画を立てて進めてきた。初めに歩行の不自由さを体験する車いすや、視覚障がいのための白杖を使ったキャップハンディ体験を行った。



—キャップハンディ体験の様子—

次に、加齢や病気による見えにくさを知る為に視界範囲が狭いゴーグルを使ったり、イヤーマフを装着して聞こえづらさを体験したり、高齢者の疑似学習を行った。

さらに、介護施設で働く方を講師に招き、認知症とは何か、認知症の方へのサポートの仕方やサポーターの活動について教えていただいた。体験の最後は、手話について講師を招いて、手話のあいさつの仕方、伝

言やかるたなどゲームで実践しながら手話を体験した。それらの体験を経て、障がいとは何か、福祉の仕事とはどんなことかを学んだり、民生委員の方の地域ボランティア活動についてお話を聞いたりという活動を行った。



—高齢者疑似体験の様子—

【学習の成果】

実際に体験してみて、体が不自由なことで日常生活を過ごす困難さを改めて考えさせる機会となった。誰にでも起こりうることであって特別なことではないということを知り、だからこそ、困っている人がいたら進んで声をかけ、必要であれば手助けしてあげるべきだという気持ちを育むことができた。



—手話学習の様子—

《5年生》

【学習内容】

単元名

持続可能な社会・町へ
～環境・資源エネルギー～

ねらい

- ・ SDGsについて調べ、世界が目指す環境について理解する。
- ・ 釜石市の環境問題や取組について調べ、自分にできることを考える。

【学習の様子】

まず、SDGsの取組について調べたことをもとに、地球の抱える環境問題の現状について知識を高めた。そして、より身近な環境について焦点を絞り、釜石市の環境取組について調査を行った。

インターネットや本を利用し、環境問題の現状や今後の課題を大まかに把握し、その上で、釜石市の環境について理解を深めることができた。実際に、浜辺のごみ拾いを行ったり、自然に生息する生物に触れ合ったりしながら、海に面する釜石市が、現在どのような局面にあるのかを知った。



—浜辺のごみ拾いの様子—

そのほかには、市に出前講座を依頼し、地球の温暖化と脱炭素の課題点や日常で発生するごみの処理の仕方、資源のリサイクル等について理解を深めながら自分にできることを考え、学習発表会で学びのまとめを発表した。



—出前講座学習の様子—



—学習発表会の様子—

【学習の成果】

SDGsの項目には様々な視点で課題点が挙げられていることや、現在の環境問題が未来の地球にとって大きな影響力をもっていることを理解した。また、釜石市が抱える環境問題を理解することによって、自分たちにできることを考えることができた。

根浜海岸のクリーン活動は、実際にごみを手にすることで自分たちの意識を変えていくことが重要であると実感を伴って知る機会となった。

《6年生》

【学習内容】

単元名

これからの自分や釜石の未来のために

ねらい

- ・東日本大震災について学ぶ。
- ・自分や地域の人々の命を守るために自分たちができることを考え、発信する。

【学習の様子】

これまでの防災学習について振り返り、今年度どのような学習をしていきたいか話し合った。その中で、「他の市町村の被害の状況を知りたい」、「陸前高田市の津波伝承館を見学したい」という意見が出された。その話し合いを受け、大震災を被災した副校長から陸前高田市の被災状況と現在の様子について学び、釜石市以外の被害の様子や復興状況について知り、東日本大震災津波伝承館見学の準備をした。



—津波伝承館見学の様子—



—陸前高田市の現状を学ぶ様子—

津波伝承館、陸前高田市震災遺構見学を通して学んだことを振り返り、災害で命を落とす人がいないようにするため自分たちにできることは何かを考えたり、家族や地域の人たちに伝えたいことについて話し合ったりした。小学校生活の防災学習のまとめとして、学習発表会では、これまでの学びや自分たちにできることの発表を行った。



—学習発表会の様子①—



—学習発表会の様子②—

【学習の成果】

津波伝承館の見学や震災以降の見学を通して、実際に見たり聞いたりすることで、地震や津波の恐ろしさを実感することができた。災害は止めることはできないが、備えることはできるという考えを確認することができた。

家族や地域の人に伝えたいという目的意識をもつことで、伝える内容や伝え方を考えることができた。未来を考えることで、釜石市を大事に思う心も育むことができた。

《特別支援学級（知的）》

（はまゆり学級）

【学習内容】

単元名 命を守り、生きるために備えよう！
ねらい ・自然災害について知り、命を守るために必要なことを考える。

【学習の様子】

防災に関する「NHK for school」の番組を活用し、身の回りに起こり得る様々な自然災害について知る機会を設けた。そして、もし災害に遭遇してしまった場合、どのような行動をとるべきなのかを考えたり、ハザードマップの見方を学習して防災への意識を高めたり、災害時の食品としてよく食べられるカップラーメンを調理して食べてみたりする体験学習を行った。



—調理実習の様子—

【学習の成果】

身の回りに起こりうる自然災害を知ったうえで、自分の身を守るためにどのような行動をとることが必要なことなのか話し合い、考えることができた。インターネットで情報を集めたり、実際に非常食を食べ慣れる体験をしたりすることができた。

《特別支援学級（情緒）》

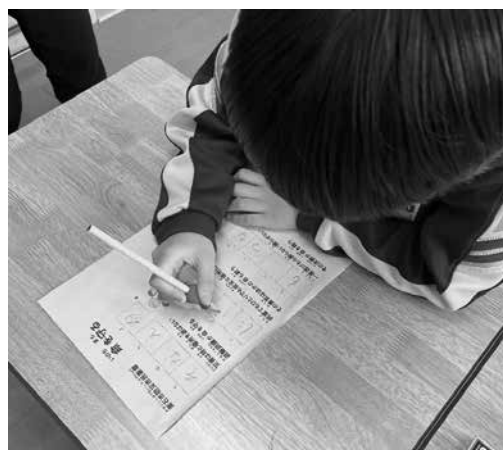
（ひまわり学級）

【学習内容】

単元名 自分の命は自分で守ろう
ねらい ・災害が起きた時の身の守り方を知り、行動に移せるようにする。

【学習の様子】

釜石市防災市民憲章（命を守る）を読み、ワークシートに大事なこと（備える、逃げる、戻らない、語り継ぐ）を記入した。なぜ避難訓練をするのか、自分の命を守ることが周りの人にとってどのような意味をもつのか、なぜ語り継ぐことが大切なのかを確認し、自分の考えを発表しながら学習に参加することができた。



—ワークシート記入の様子—

【学習の成果】

避難訓練時に、避難訓練の意味やどのように行動すればよいのかを確認していたため、恐怖心が和らぎ、落ち着いて行動することができた。

【研究の成果（まとめ）】

今年度の双葉小学校のテーマは「釜石市のよさと震災による被害を学び、考え表し実践する児童の育成」である。その実現に向けて、地域の様々な施設、支える人、もの、ことを学び、そのよさを見つめる探究学習の全体計画を見直し、再構築を行った。1年生は学校の周囲の様子、2年生は釜石市の発展を支えた「鉄」に関すること、3年生は釜石市の町づくりや郷土芸能、4年生は誰もが安心して過ごせるための努力や工夫、5年生は持続可能な社会・町を築くための環境、資源エネルギーについて学びを深めた。系統的な学びを計画し、釜石市のよさを様々な角度からとらえることができるようにした。さらに、全学年で防災教育に取り組み、復興・復旧にむけた取組や防災、震災被害等に目を向ける児童を育ててきた。そして、各学年で積み重ねた学びの集大成として、「これからの自分や釜石の未来のためにできること」を6年生が考え、発信した。この全体計画の見直しや再構築により、学校をリードする6年生が釜石市合同避難訓練に積極的に関わろうとするようになり、さらには、隣の市の山火事災害等にも自分たちで募金を呼びかけたり、消防隊への感謝を伝えようと横断幕を作ったりするまでになった。そのことは下学年の児童にも伝わり、学校全体が「考え表し実践する」ことへつながっている。

学校だけでなく、地域や釜石市の様々な施設、支える人、もの、ことと連携し、学びを価値付け、系統的に位置付けることは、「考え表し実践する児童の育成」に大きな成果となった。

【今後の課題】

学校の周囲には多くの学びがある。しかし、大震災の復興や時代の流れに合わせて、常に模索していく必要がある。さらに、情報化が進む中、釜石市だけに限らず、中学校区の連携、岩手県内外の連携、そして海外にも目を向けていく必要があるだろう。東日本大震災で受けた様々な支援や援助を、復興の成果や防災教育の共有財産として発信していく役目を担っていくことも視野に入れていきたい。これからも、様々な状況やニーズに応えながら、自ら考え表し実践する児童の育成に向けて、学校全体で取り組んでいきたい。



—山林火災消火活動への感謝を伝える—

【おわりに】

震災から15年目を迎え、震災を知らない子供たちだが、大震災のことや防災学習を真剣に取り組んでいる。自分たちの住む釜石市のよさを体験しながら、様々なことへの感謝の心も大きく育っている。この成果が、子供たちの将来だけでなく、釜石市もさらに豊かにしていくだろう。さらに、日本全国や海外に伝えていくことを実践していきたい。（校長：市村かおり）